

※  は市旗です。市全体の話題の場合に表記しています。

「県下一周駅伝」肝属チームが力走



2月20日から24日までの5日間、県下全域を舞台に「第57回県下一周市郡対抗駅伝競走大会」が開催され、12チームが熱い戦いを繰り広げました。大隅半島を走る大会4日目は、霧島市からゴールとなるリナシティかのや前までの全10区間でタスキがつながら、地元肝属チームは、沿道に並んだ大勢の市民の声援を受けながら、日間3位でゴール。市民の目の前で、地元入りの意地を見せました。5日間総合では、鹿児島チームが15回目の優勝。肝属チームは総合8位となり、前回大会から一つ順位を落としましたが、肝属地区の代表として全力で走り抜けていました。

県地区対抗女子駅伝で肝属チームが優勝



1月31日に霧島市で行われた「第23回鹿児島県地区対抗女子駅伝競走大会」で優勝した肝属チームが、2月26日、市役所を表敬訪問しました。大会は、6区間21.0975kmのコースで開催。同チームは見事なチームワークを見せ、見事2年ぶり6回目の優勝を飾りました。選手たちは「来年も優勝に貢献できるように頑張りたい」と決意を話してくれました。

高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」に称賛の拍手



2月13日・14日の2日間、リナシティかのやで、高校生ミュージカル「ヒメとヒコ～ある王の物語～」が上演されました。このミュージカルは、1,500年前の大隅と奄美を舞台に展開される、笑いあり涙ありの創作ミュージカルで、昨年8月に行われた奄美大島公演に引き続き、今回で4回目の公演。舞台には、公募で集まった高校生11人のほか、鹿屋女子高校音楽部、国分中央高校ダンス部、奄美大島の大島高校新体操部と奄美高校郷土芸能部が出演。公演では、高校生の表情豊かな演技や躍動感あふれる踊り、美しい歌声が披露されるとともに、プロのミュージシャンが奏でる幻想的な音楽や効果音が舞台に華を添え、訪れた観客を感動の渦に巻き込みました。上演終了直後には、伊藤県知事、朝山奄美市長、嶋田鹿屋市長から舞台の出演者に花束が手渡され、満員の会場は称賛の拍手に包まれていました。

ヨットのナショナルチーム選考レースが開催



2月10日から15日にかけて、高須町沖の錦江湾で「JSAF（日本セーリング連盟）2010年度ナショナルチーム選考レース」が開催されました。このレースは、今年のヨットの日本代表チームを選考する大会で、鹿屋が開催地に選ばれたのは、強い風が吹くことが決め手となったもの。5日間にわたって、日本のトップクラスの選手が激しいレースを繰り広げ、6艇種8種目26人の2010年度ナショナルチームが決定しました。

全国商業高等学校協会の検定試験で快挙



2月22日、全国商業高等学校協会主催の検定試験で素晴らしい成果を上げた鹿屋女子高校の生徒が、市役所を表敬訪問しました。同検定試験は、就職・進学の際に高く評価されている資格で、同校では、1人が全8種目で、10人が7種目で1級を取得し、この結果は県内でも最高の快挙。生徒たちは「資格を生かして夢を実現したい」と話してくれました。

吾平の自然を楽しみながらウォーキング



2月14日、大隅広域公園周辺で「第16回美里あいら心わくわくウォーキング大会」が開催されました。この大会は、ウォーキングを通じて心と身体の健康作りに役立ててもらおうと毎年行われているもので、当日は市内外から約500人が参加。ウォーキングは5kmと8kmのコースで行われ、参加者は「美里あいら」の自然を楽しみながら思い思いのペースで歩き、さわやかな汗を流していました。また、コースの途中に設置された黒羽子観光農園のイチゴの試食コーナーでは、甘いイチゴをおいしそうにほおぼっていました。

申良ふるさと申良路を駆け抜ける



2月7日、申良町で「第52回申良町内一周駅伝大会」が開催されました。この大会は、社会体育の普及や推進、健康増進などを図るとともに、市民の親睦を深めることを目的に毎年行われているもので、全11区間24.7kmのコースに10チームが参加。選手たちは、沿道の大応援を背に、タスキをつなぎながら「ふるさと申良路」を駆け抜けていました。各部の優勝は次のとおり。小学生の部＝申良ファイターズ 中学生の部＝上小原中野球部 一般の部＝洗心保育園